

特定非営利活動法人
足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ

2020年度法人総会 議案書



※写真(左上から時計回りに)
総会記念ミニシンポジウム「電気代をダイエットできるしくみを作る！」(5/25)／環境フェア2019(6/1)／斉藤区長にエネルギー政策を提案(12/12)／みんな電力顔の見える発電所ツアー(1/25)

- 第1号議案 2019年度事業報告
- 第2号議案 2019年度会計決算報告
- 第3号議案 2020年度事業計画(案)
- 第4号議案 2020年度会計予算(案)

2020年6月13日 11:00～12:00
小松川市民ファーム

第1号議案 2019年度事業報告

2019年度は、本会の活動目的である、気候変動対策を通じた低炭素な地域社会の実現に向けて、活動の方向性が見える1年となった。ひとつは、「ソフト」としての足温ネット、もうひとつは地域における役割である。前者では、20年余にわたる活動そのものがソフトとして評価を受ける機会が増え、後者では、気候変動による発災への備えとしての役割がクローズアップされた。今後、こうした点に着目した新たな活動の展開が期待される。一方で、組織としての課題であるマンパワーの不足、メンバーと発想の固定化＝高齢化においても、新たなメンバーの参加を得て、それを機に他団体との協働も始まりつつある。

こうした動きを限りあるマンパワーで無理なく進めるためには、活動の展開に向けた適切な情報発信のあり方が問われることになる。本会が必要とする対象にあわせ、対象が必要とする情報をいかに発信していくかが課題として明確となった。

●特定非営利活動に係る事業

1. 家庭・地域における省エネアクションプランの作成とキャンペーンの実施

えどがわエコセンター低炭素社会づくり委員会を通じて、省エネ家電への買い替え機運を高める「古い冷蔵庫コンテスト」について実現可能性の検討を開始すると共に、みどりのカーテンモニター事業などに協力した。総会記念ミニシンポジウムでは「電気代をダイエットできるしくみを作る！」と題して省エネ家電買い替えのしくみづくりについて討議を行った。

<自己評価>

検討・討議を進め、社会実装に向けた具体的なプランの作成を進めていく必要がある。

2. 地球温暖化やエネルギー等環境問題に関する研修会の実施等の啓発教育

総会記念ミニシンポジウム「電気代をダイエットできるしくみを作る！」(5月)、江戸川区環境フェアへの出展(6月)、エネルギーカフェ第3弾(10月)を開催した。また、他団体が主催するセミナーや学習会への講師派遣は5回と前年度を上回った。なお、3月に予定していた越谷市民ネットワークでの移動式自立電源づくりWSは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催が見送りとなった。

<講師派遣実績>

- ① 市民電力連絡会「首都圏交流会トーク&ライブ」(10/19)
- ② 市民・地域共同発電所全国フォーラム(11/1)
- ③ 第14回もうひとつの住まい方推進フォーラム2019(11/9)
- ④ 江戸川総合人生大学(1/15)
- ⑤ 移動式自立電源づくりWS(2/2)

<自己評価>

ミニシンポジウムは参加者が前年を下回り、環境フェアでは来場者を電力自由化セミナーにつなげることが十分にできなかった。一方、太陽光発電の自立運転モードについて学ぶエネルギーカフェ第3弾では区民や新聞記者の参加もあり、講師派遣実績では、初めて移動式自立電源づくりWSに講師を派遣できた。こうした結果を受け止めながら、人々の関心を引きつける企画立案が求められる。

3. 市民出資による自然エネルギー発電所の建設と運営

元気力発電所(7月)、一般社団法人銀座環境会議(1月)からの視察を受け入れた。また、厚木市民発電所開所式(1月)で運営状況の報告を行ったほか、発電所建設をめざす我孫子自然エネルギーに対してアドバイスをを行った。このほか、市民立発電所の余剰電力に対する買取価格が固定価格買取制度の終了に伴い大幅に下がる(48円→8.5円)ことから、売電先を「みんな電力」(13.5円)に切り替えた。

<自己評価>

発電所の見学受け入れにとどまらず、自立運転モードを活用した停電時の非常用電源が有用であることを示し、区や自治会における防災対策としての活用を促すため、自治会などへの情報発信が求められる。

4. 地球温暖化防止のための地域行政、国、国際社会、市民への政策提言

江戸川区における地球温暖化対策の推進に向け、非常事態宣言の発出などについて区議会議員を通じた議会質問に協力すると共に、12月には台風19号来襲を受けて防災対策としての既設の住宅用太陽光発電を非常時給電ネットワークとすることなどの政策提案を区長面談で行った。議会質問では必ずしも前向きな答弁を得られなかったが、区長への提案では取り組みに向けて具体的な議論をすることができた。

<自己評価>

地球温暖化防止の観点から切り込むよりも身近な課題から切り込んだ方が地域行政では適切であることから、提言から一方進めて具体的な連携を模索していく必要がある。

5. 国内外で開催される、気候変動枠組み条約関連会議への参加やキャンペーンの実施

「気候ネットワーク」や「ストップフロン全国連絡会」の運営に理事として参画すると共に、「パワーシフトキャンペーン」の活動に参加してきた。

<自己評価>

参加にとどまらず、具体的な活動を行うことで、地域活動の必要性を訴えていく必要がある。

6. 政府機関、自治体、事業者、市民、NGOとの交流、連絡提携

環境フェアへの出展(6月)において、「みんな電力」の協力で電力自由化セミナーを開催し、「パタゴニア丸の内ストア」のプロビジョンズフーズの試食を行った。また、「エコメッセ元気力発電所」、「さようなら原発江戸川連絡会」、「えどがわエコセンター」の運営に参画しつつ、オフグリッドハウス松江の家の運用では「江戸川子どもおんぶず」と連携してきた。さらに、日本労働者協同組合との提携事業第一弾として移動式自立電源づくりWSを実施した。一方、聖心女子大学グローバル共生研究所から特別展示の要請については共通テーマが「持続可能なオリンピック」であることが分かり、調整の結果、展示要請は見送られた。

<自己評価>

具体的な事業提携が始まったことから、様々な主体との交流につなげていけるよう提携を押し進めていく必要がある。

7. 本法人の目的および地球環境問題全般に関する調査研究および情報の収集と提供

ホームページとフェイスブック、ツイッターによる情報発信に努める一方、『あしもと通信』の発行は Vol.92(7月)~Vol.94(2月)と3号にとどまったが、総会までに Vol.95を発行でき、結果として4回発行を守ることができた。また、『しんぶん赤旗』(11月9日付)、生活クラブ連合会『生活と自治』3月号に活動紹介記事が掲載されたほか、地域生活研究所『まちとくらし研究』第29号に寄稿するとともに、ニュースアプリ『Energy shift』での原稿連載がスタートした。

<自己評価>

情報発信の機会が増えたのは、太陽光発電の自立運転モードの活用や移動式自立電源づくりWSが関心を引いた一方で、20年を超える活動経過も注目されたためと思われる。そこで、事業を企画する際には情報発信を組み込んだ形で立案していく必要がある。

●その他の活動に係る事業

1. 発電にかかる事業

えど・そら1号機~3号機は、概ね想定通りの発電量を確保できた。1月25日には「みんな電力」ユーザーの発電所見学会を受け入れ、活動状況の説明や交流ができた。

<自己評価>

今後、法令改正により適正な廃棄処理費用の積み立てが求められることが想定されており、借入金および出資金返済に向けた積み立て状況を見ながら、一定金額の積み立てを検討していく必要がある。また、単なる発電事業ではなく、エネルギーシフトに向けた情報発信拠点となるよう、「みんな電力」とのさらなる連携強化を図るとともに、地域への情報発信のあり方について検討する必要がある。

2019年度 事業活動日誌

- 4. 12 「生活クラブエナジー」と懇談
- 4. 23 ●第1回運営委員会
- 5. 10 早稲田大学坪郷教授から市民電力に関するヒアリング
- 5. 14 ●第2回運営委員会
- 5. 18 「鳥海工業」から太陽光発電パネルを有償で引き取り
- 5. 25 足温ネット2019年度定時総会&記念ミニシンポジウム
- 6. 01 江戸川区環境フェア2019に出展
- 6. 15 ◇地域生活研究所『まちとくらし研究』第29号に寄稿
- 6. 25 ●第3回運営委員会
- 6. 29 松江の家にみどりのカーテンを設置
- 6. 28 「みんな電力」からインタビュー取材を受ける。朝日新聞経済部記者伊藤氏から取材を受ける
- 7. 01 「パタゴニア丸の内ストア」と環境キャンペーンについて打ち合わせ
- 7. 11 ◇「元気力発電所」が松江の家を視察に来訪
- 7. 15 ※『あしもと通信』Vol.92を発行
- 7. 23 ●第4回運営委員会
- 8. 01 「パタゴニア丸の内ストア」と環境キャンペーンについて打ち合わせ
- 8. 17 夏の板取ツアー(～19)
- 8. 29 「パタゴニア丸の内ストア」の東京都環境局ヒアリングに同席
- 9. 10 ●第5回運営委員会
- 9. 12 えど・そら3号機の飛来物を撤去
- 10. 06 エネルギーカフェ2019第3弾を開催
- 10. 19 ◇市民電力連絡会「首都圏交流会トーク&ライブ」に出演
- 10. 23 ●第6回運営委員会
- 11. 01 ◇市民・地域共同発電所全国フォーラム(～3)に出演
- 11. 05 「縁パワーしまね」より移動式自立電源づくりWSについて問い合わせ
- 11. 09 ◇第14回もうひとつの住まい方推進フォーラム2019に出演
『しんぶん赤旗』に掲載される
- 11. 14 みんな電力発電所ツアーについて打ち合わせ
- 11. 16 ※『あしもと通信』Vol.93を発行
- 11. 24 市民立・江戸川第1発電所の余剰電力をみんな電力に供給開始
- 11. 26 ●第7回運営委員会
- 12. 12 斉藤区長と懇談。防災対策としてのエネルギー政策を提案
- 12. 21 「我孫子自然エネルギー」と打ち合わせ
市民ファーム忘年会に参加
- 12. 24 富士テクニカルが発電所の状況確認に来訪
市民立・江戸川第2発電所の余剰電力を「みんな電力」に供給開始
- 1. 11 ◇厚木市民発電所開所式で活動報告
- 1. 15 ◇「江戸川総合人生大学」に出講
- 1. 19 生活クラブ連合会『生活と自治』編集部から取材を受ける
- 1. 21 ●第8回運営委員会
- 1. 25 ◇みんな電力・顔の見える発電所ツアーを受け入れ
- 1. 31 「一般社団法人銀座環境会議」が発電所見学に来訪
- 2. 01 ※『あしもと通信』Vol.94を発行
◇「アクト・ビヨンド・トラスト」と覚書を締結
- 2. 02 ◇移動式自立電源づくりWS(ワーカーズコープ本部)を開催
- 2. 05 「エコメッセ江戸川店」に電光掲示板を設置
- 2. 10 「180Degrees Consulting Japan」(学生コンサルティング団体)と懇談
- 2. 21 ◇ニュースアプリ『Energy shift』で原稿連載スタート
- 2. 24 生活クラブ連合会『生活と自治』3月号に掲載
- 3. 25 ●第9回運営委員会

地産地消エネルギー

東京都江戸川区では10月、NPO法人「足元」からの地球温暖化を減らす市民ネットワークが、「足元ネットワーク」が、実用時に太陽光発電を活用するためのワークショップを開きました。

「千葉県で太陽光発電が起き、昨年は北海道旭川で最期にわたるアラックアウト（全線停電）が起きた。太陽光発電で発電している家庭は、災害時にどう対応したらいいかを知っておくことが必要だ。」

「NPOと事務局関係の山崎栄博さん。」

「千葉県で太陽光発電が起き、昨年は北海道旭川で最期にわたるアラックアウト（全線停電）が起きた。太陽光発電で発電している家庭は、災害時にどう対応したらいいかを知っておくことが必要だ。」



高齢者共同住宅「ほつと観」に設置された足元ネットワークの太陽光パネル（東京都江戸川区）

は通常、パワーコンディショナーから分電盤を通り、ブレーカーでつながったときにパワーコンディショナーを自立運転モードに切り替える作業が必要ですが、まずその手順を覚えます。【自立運転への切り替え手順】

太陽光売電→自宅活用学ぶ

東京・江戸川区 NPOと行政 連携必要。



壁に埋め込まれたパワーコンディショナー



災害時に差し込む太陽光発電用コンセント（右）と通常用コンセント

- ①パワーコンディショナーの自立運転用コンセントを確認する
- ②取扱説明書で自立運転モードへの切り替え方を確認する
- ③主電源ブレーカーをオフにする
- ④太陽光発電ブレーカーをオンにする
- ⑤自立運転モードに切り替える
- ⑥自立運転コンセントに必要な機器を接続して使用する
- ⑦（主電源がオフ時は、自立運転モード解除も太陽光発電用コンセント）



小型の高圧送電ケーブル（下）への充電を学ぶも足元ネットワーク事務局の山崎さん（右）と事務局関係の山崎栄博さん（左）

「足元ネットワーク」では、連携している太陽光発電所が災害時のエネルギー供給口になると考えています。自治会と連携し、災害時は近所などで使えます。と伝えておくつもりと山崎さん。足元ネットワークの事務局にも声をかけて、参加者が手をあげました。

足元ネットワークは、1997年、区内の寺院の屋根に太陽光パネルを設置し、市民立・江戸川第一発電所（中井町4丁目）をスタート。現在は区内3カ所で太陽光発電所を運営しています。今回の会場は、足元ネットワークの事務所でもある高齢者共同住宅「ほつと観」72歳の太陽光パネルを設置し、災害時は共同スペースである「高齢者共同住宅」で発電機で発電を使用できます。この事務所を、発電機が壊れたら、エネルギー供給口になるといいます。

さらに、山崎さんは「災害時給電ネットワーク」を構築。太陽光発電のオーナーが市区町村と「災害時給電協力協定」を結び、災害に任じた発電機、オーナーは近隣住民に電力を供給します。

自治会は給電コードやスマホ充電ケーブルなどを備蓄するシステムを構築してはどうかと語りました。

参加者からは「千葉では太陽光発電を行う家が給電スポットになっただけで、太陽光発電の活用も

「足元ネットワーク」は、自治会と連携し、災害時は近所などで使えます。と伝えておくつもりと山崎さん。足元ネットワークの事務局にも声をかけて、参加者が手をあげました。

足元ネットワークは、1997年、区内の寺院の屋根に太陽光パネルを設置し、市民立・江戸川第一発電所（中井町4丁目）をスタート。現在は区内3カ所で太陽光発電所を運営しています。今回の会場は、足元ネットワークの事務所でもある高齢者共同住宅「ほつと観」72歳の太陽光パネルを設置し、災害時は共同スペースである「高齢者共同住宅」で発電機で発電を使用できます。この事務所を、発電機が壊れたら、エネルギー供給口になるといいます。

さらに、山崎さんは「災害時給電ネットワーク」を構築。太陽光発電のオーナーが市区町村と「災害時給電協力協定」を結び、災害に任じた発電機、オーナーは近隣住民に電力を供給します。

20年前、市民が発電所を始めた理由

発電所を建ててダム開発を止める：レジェンド？はたまた情性？～足元（そくおん）ネットワーク20年の軌跡 第1回

●上:『しんぶん赤旗』2019. 11. 9付
●下:『Energy shift』2020. 2

第2号議案 2019年度会計決算報告

活動計算書

自:平成31年4月1日 至:令和2年3月31日

(単位:円)

	非営利活動に係る事業	その他の事業	合計	摘要
I 経常収益				
売電売上	0	2,286,772	2,286,772	えど・そら売電収入
会員会費収入	29,000	0	29,000	年会費(1,000×29名)
寄付金収入	7,000	0	7,000	
講師派遣収入	196,000	0	196,000	講師等謝金
その他収入	35,600	38,877	74,477	ワークショップ参加費、見学謝礼
受取利息	0	205	205	預金利息(小松川信用金庫等)
経常収益計	267,600	2,325,854	2,593,454	
II 経常費用				
1.事業費				
会議費	61,262	0	61,262	総会開催費
通信費	0	0	0	
備品消耗品費	256,482	0	256,482	移動式自立電源システム部材等
水道光熱費	0	26,197	26,197	電気代等
諸会費	40,050	0	40,050	気候ネットワーク会費等
支払手数料	0	432	432	振込手数料等
地代家賃	0	64,800	64,800	発電所用地賃料
減価償却費	0	1,108,818	1,108,818	えど・そら発電設備(太陽光発電パネル等)
雑費	28,000	0	28,000	活動手当
支払利息	0	31,552	31,552	借入金
2.管理費				
会議費	1,056	9,179	10,235	運営委員会開催費
旅費交通費	1,269	11,031	12,300	イベント参加旅費等
通信費	9,178	79,772	88,950	『あしもと通信』発送等
消耗品費	524	4,557	5,081	文具、用紙類等
支払手数料	182	1,585	1,767	振込手数料等
地代家賃	6,191	53,809	60,000	事務所賃料
支払報酬料	8,915	77,485	86,400	税理士報酬
印刷費	1,071	9,309	10,380	『あしもと通信』印刷等
雑費	10,199	88,648	98,847	活動手当
経常費用計	424,379	1,567,174	1,991,553	
当期経常増減額	-156,779	758,680	601,901	
経理区分振替額			0	
税引前当期正味財産増減額			601,901	
法人税、住民税及び事業税			200,537	
当期正味財産増減額			401,364	
前期繰越正味財産			1,715,953	
次期繰越正味財産			2,117,317	

財産目録
令和2年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
手元現金	0	
普通預金		
三菱UFJ銀行 小松川支店	126,497	
小松川信用金庫 菅原橋支店	868,791	
ゆうちょ銀行 振替口座	88,615	
小松川信用金庫 定期預金	1,924,224	
小松川信用金庫 定期積立	3,960,000	
売掛金		
売電料	484,962	
見学ツアー見学料(みんな電力)	10,000	
立替金		
見学ツアー費用(みんな電力)	96,977	
流動資産合計		7,560,066
2. 固定資産		
(1)有形固定資産		
機械装置(太陽光パネル5ヶ所)	8,287,974	
有形固定資産計	8,287,974	
(2)無形固定資産	0	
(3)投資その他の資産		
出資金(小松川信用金庫)	50,000	
投資その他の資産計	50,000	
固定資産合計		8,337,974
資産合計		15,898,040
II 負債合計		
1. 流動負債		
未払金		
事務所家賃及びインターネット等使用料	254,648	
屋根賃貸料	64,800	
バッテリー交換料	43,560	
その他(電気料金等)	5,310	
前受金	1,000	
預り金		
源泉所得税	2,205	
未払法人税等	200,200	
流動負債計		571,723
2. 固定負債		
えど・そら債 1号	4,980,000	
えど・そら債 2号	4,000,000	
えど・そら債 3号	2,500,000	
こましん えどそら3号融資	1,729,000	
固定負債合計		13,209,000
負債合計		13,780,723
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		1,715,953
当期正味財産増減額		401,364
正味財産合計		2,117,317
負債及び正味財産合計		15,898,040

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

2020年5月25日

監事

館岡景



貸借対照表
令和2年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0		
普通預金	6,968,127		
売掛金	494,962		
立替金	96,977		
流動資産合計		7,560,066	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
機械装置	8,287,974		
有形固定資産計	8,287,974		
(2)無形固定資産	0		
(3)投資その他の資産			
出資金	50,000		
投資その他の資産計	50,000		
固定資産合計		8,337,974	
資産合計			15,898,040
II 負債合計			
1. 流動負債			
未払金	368,318		
前受金	1,000		
預り金	2,205		
未払法人税等	200,200		
流動負債計		571,723	
2. 固定負債			
えど・そら債	11,480,000		
こましん融資	1,729,000		
固定負債合計		13,209,000	
負債合計			13,780,723
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,715,953	
当期正味財産増減額		401,364	
正味財産合計			2,117,317
負債及び正味財産合計			15,898,040

第3号議案 2020年度事業計画案

★脱原発・脱炭素社会に向けた可能性の実践と提案

2020年5月初め現在、全世界で340万人以上が感染し、死者が24万人を超える新型コロナウイルスのパンデミックは、様々な社会経済活動の停滞を招いた。近年多発している感染症の背景には、気候変動の影響による生物生態環境の変化があると言われている。気候変動枠組み条約に基づき発効したパリ協定は、温室効果ガス削減目標(NDC)の再提出を求めているが、政府は3月末、「2030年までの目標を26%にすえ置く」とした。そして、石炭火力発電の輸出に対する公的支援に関する環境省検討会がまとめたファクト集(素案)では、「安定的な供給・経済性の観点から石炭を選好する国がある」ことを挙げるなど、CO2排出削減とは逆行した動きが続いている。また、政府は感染症対策に消極的な一方で、感染終息後の消費刺激策に熱心だが、こうした経済対策が気候変動に悪影響をあたえることが懸念される。

一方、石炭火力発電に投資していたみずほフィナンシャルグループが、気候ネットワークの株主提案をきっかけに2050年までの与信ゼロを目標に掲げるなど、市民側の声が事態を動かすケースも起きている。当会としても、20年余にわたる活動全体をソフトとして生かしながら、地域における再生可能エネルギーの普及拡大に向け、防災対策との親和性の高さをアピールしていくことが求められる。新型コロナウイルスのパンデミックで先が見通せない状況はあるものの、組織的課題の解決策を探りながら、「原発」と「炭素」2つの脱を果たすため、実践と提案を行っていく。

●特定非営利活動に係る事業

1. 家庭・地域における省エネアクションプランの作成とキャンペーンの実施

「えどがわエコセンター」低炭素社会づくり委員会に参加し、省エネ・節電チャレンジやみどりのカーテンモニター事業に関わると共に、中古太陽光発電パネルを利活用した移動式自立電源システムづくりワークショップの事業化を図る。

2. 地球温暖化やエネルギー等環境問題に関する研修会の実施等の啓発教育

新型コロナウイルス感染拡大防止のため江戸川区環境フェアは中止となり、6月の総会開催に合わせて開催する予定だった「えど・そら交流会」も中止とした。オフグリッドハウス松江の家への視察を積極的に受け入れ、「江戸川総合人生大学」への出講など、他団体が主催する学習会への講師派遣を積極的に行うと共に、エネルギーカフェを企画・開催する。

3. 市民出資による自然エネルギー発電所の建設と運営

市民立発電所やえどがわ市民発電プロジェクト“えど・そら”への視察を積極的に受け入れる。10月に千葉商科大学(千葉県市川市)で開催予定の「市民・地域共同発電所全国フォーラム」実行委員会や市民電力連絡会の運営に参画しつつ、発電所建設をめざす我孫子自然エネルギーに対してアドバイスをを行いながら、市民による自然エネルギー発電事業の普及・拡大に資する。

4. 地球温暖化防止のための地域行政、国、国際社会、市民への政策提言

「気候ネットワーク」や「e シフト」、「市民電力連絡会」、「グリーン連合」などが企画・主催する政策提言活動に参加していく。また、第2次エコタウンえどがわ推進計画の策定を受けて、既設の住宅用太陽光発電を非常時給電ネットワークとすることなど、具体的な省エネアクションプランやキャンペーンについて江戸川区や「えどがわエコセンター」との協議実現を図る。

5. 気候変動枠組み条約関連会議への参加やキャンペーンの実施

「気候ネットワーク」や「ストップフロン全国連絡会」の運営に理事として参画すると共に、それらを含む団体が主催する、気候変動対策キャンペーンや再生可能エネルギーの普及拡大に向けた「パワーシフトキャンペーン」の活動に参画していく。

6. 政府機関、自治体、事業者、市民、NGOとの交流、連絡提携

「パタゴニア丸の内ストア」と交流・連携を深めていくと共に、「エコメッセ元気力発電所」、「さようなら原発江戸川連絡会」、「えどがわエコセンター」の運営に参画しつつ、「江戸川子どもおんぶず」と連携するオフグリッドハウス松江の家の運用では太陽光発電の増設を進める。

7. 本法人の目的および地球環境問題全般に関する調査研究および情報の収集と提供

当会の事業目的や活動状況を広く知ってもらうため、ホームページとフェイスブックの連動による時宜に適した情報発信に努めると共に、『あしもと通信』の計画的な発行を進める。また、活動紹介パンフレットを更新・作成すると共に、会の運営課題解決に資するため、学生コンサルティング団体「180Degrees Consulting Japan」との協働を行う。

●その他の事業

1. 発電にかかる事業

電力供給先である「みんな電力株式会社」との事業連携を強めことで、えど・そら発電所での再生可能エネルギー発電による電気が実際に使われ、気候変動対策に貢献することを示していく。

第4号議案 2020年度会計予算(案)

活動計算書

自:令和2年4月1日 至:令和3年3月31日

(単位:円)

	2019年度実績	2020年度予算	摘要
I 経常収益			
売電売上	2,286,772	2,300,000	えど・そら売電収入
会員会費収入	29,000	60,000	年会費(1,000×60名)
寄付金収入	7,000	5,000	
講師派遣収入	196,000	150,000	講師等謝金
その他収入	74,477	80,000	ワークショップ参加費、見学謝礼
受取利息	205	300	預金利息(小松川信用金庫等)
経常収益計	2,593,454	2,595,300	
II 経常費用			
1. 事業費			
会議費	61,262	5,000	総会開催費
通信費	0	0	
備品消耗品費	256,482	300,000	移動式自立電源システム部材等
水道光熱費	26,197	30,000	電気代等
諸会費	40,050	40,000	気候ネットワーク会費等
支払手数料	432	500	振込手数料等
地代家賃	64,800	64,800	発電所用地賃料
減価償却費	1,108,818	1,100,000	えど・そら発電設備(太陽光発電パネル等)
雑費	28,000	30,000	活動手当
支払利息	31,552	35,000	借入金
2. 管理費			
会議費	10,235	10,000	運営委員会開催費
旅費交通費	12,300	10,000	イベント参加旅費等
通信費	88,950	100,000	『あしもと通信』発送等
消耗品費	5,081	10,000	文具、用紙類等
支払手数料	1,767	2,000	振込手数料等
地代家賃	60,000	60,000	事務所賃料
支払報酬料	86,400	86,400	税理士報酬
印刷費	10,380	15,000	『あしもと通信』印刷等
雑費	98,847	100,000	活動手当
経常費用計	1,991,553	1,998,700	
当期経常増減額	601,901	596,600	
経理区分振替額	0	0	
税引前当期正味財産増減額	601,901	596,600	
法人税、住民税及び事業税	200,537	180,000	
当期正味財産増減額	401,364	416,600	
前期繰越正味財産	1,715,953	1,500,000	
次期繰越正味財産	2,117,317	1,916,600	

※返済積立金として1,440,000円(120,000円×12月)を積み立てる予定である。

※パネル処理費用として60,000円(5,000円×12月)を積み立てる予定である。

撮影/高木あつ子・文/本紙 宮下 陸

ロードマップ その先の明日へ

目的地にまっすぐでなくても、当初予定の場所でもなくとも。さまざまな課題に出会い、時に寄り道しながら、自らの道を探る多様な人々の姿を紹介します。

気候危機を語って20余年、 希望は「楽しみながらの実践」にあり

気候危機が国際的な課題として認識され始めたのは1990年代。95年にはドイツのベルリンで、国連気候変動枠組み条約第1回締約国会議（COP1）が開催された。その頃から20年以上にわたってこの問題に取り組んできたのが、NPO法人「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」だ。その名の通り、東京都江戸川区の地にしっかり足を着け活動する。多様でユニークなその実践は、地球温暖化防止運動のパイオニアともいえる。



「足元ネット」のおすすめ「移動式自立電源」を紹介するメンバー。左から事務局長の山崎求博さん、運営委員の柳澤一郎さん、代表理事の奈良田真さん。太陽光パネル1枚に、インバーターとコントローラー、バッテリーを接続し、ミニボックスに入れて車に乗せたもの。太陽が照っている場所に自由に移動して充電しておけば、スマホなら相当数を充電できる。